

第四章 終戦後に於ける状況（出所酒井中佐記憶）

一、停戦命令の受領

八月十五日ポツダム宣言受諾に關する帝國の發表を知り十七日南方軍より五日以内に停戦すべき旨の命令を受領し軍は十八日朝「二十一日六時を以て全軍停戦」を發令せり

停戦發令と共に軍は將兵に對し輕卒なる行動を嚴戒せり

二、開遠に於ける豫備交渉

八月二十六日中國第一方面軍司令官盧漢上將より日本軍代表四名を九月二日開遠に派遣すべき招電あり

軍は軍參謀、第二十一師團參謀、將校、通譯各一を代表とし九月二日空路開遠に至らしむ我が代表は軍の兵力配置、交通狀況等を説明すると共に覺書五通を受領し三日歸還せり

三、覺書に基く處理

軍は第一方面軍より受領せる覺書に準據し直ちに兵力の河内東方及

南方五十紵以北の地區への集結を發令すると共に武裝解除に應ずる所
要の準備を爲さしめたり

四 指揮系統の變更

九月四日北緯十六度以北の佛印に在る軍は支那派遣軍總司令官の指
揮下に入るべき旨命令を受領す是より先終戦と共に華道軍參謀長は
西貢に赴き南帯地區の終戦處理に任じつつありしが右命令受領と共に
此南部に於ける處置は第二師團長馬奈木中將軍司令官の名を以て實
施することとせり

五 中國軍の到着

九月三日我が軍代表の歸還に同行し中國第一方面軍謝崇謙少將は河
内前進指揮所開設の爲到着次第で副參謀長軍繼胤少將は九日河内に到
著し我との交渉を開始せり

九月十四日方面軍司令官盧漢上將到着佛印總督府に入れり
中國軍は第六十二軍を以て廣西方面より第五十九軍第六十軍等を以
て雲南方面より九月上旬以降逐次入境九月十日河内海防に到着し逐

0694

次警備を我と交代せり

六 集中營集結と歸還

軍は武裝解除後中國軍の指示に基き漢街南定ツーランの三集中營に集結し諸勤務等作に従事中なりしも四月三日海防を出帆せる第一船に引續き四月二十一日の最終船を以て全部隊（一部行動不明者を除く）邦人の歸還を終結せり

七 南部佛印に於ける狀況

十月南部印度支那軍司令部臨時編成せられ西大條中將之を指揮終戦事務を處理す

終戦直後蜂起せる越盟軍鎮定の爲我が軍は英軍の指示に依り之に參加之が爲我が軍の武裝解除は遅れたるも佛軍の到着に伴ひ逐次進捗年末迄には概ね聖岬附近に集結四月上旬より五月上旬に至る間に歸還輸送を終了せり

別冊第一

第三十八軍作戦計畫（酒井中佐の記憶に依る）

第一 作戦方針

一、軍は來攻する敵に對し凡有手段を盡して其の戦力の漸減を策しつゝ河内西北高地及西貢北方地區を支撐とする柔軟なる防禦戦闘を指導し敵の攻勢意志の挫折を圖る

二、米支地上連絡の妨害遮斷に努むると共に河内及西貢は極力之を保持す

三、作戦は南北各々獨立して遂行し得る如く準備す

第二 指導要領

四、上陸を企圖する敵に對しては航空部隊と協同して所在部隊を以て之を水際に撃破するに努む

五、上陸せる敵に對しては遊撃據點に據り果敢なる遊撃戦を展開し其の戦力就中人的戦力の漸減を圖る

同時支那軍越境攻撃し來る場合に於ては一部を以て之を阻止せしめ
且米支地上連絡の妨害遮断を策す

六六

六河内西北ホアピス周邊及西貢北方ロクニン周邊に堅固なる支拂を構
成して來攻する敵に對し遊撃戰の成果と相俟て韌軟なる防禦戰闘を
指導し敵戦力の急速なる消磨に努め其の攻勢意志の挫折に努む
セメコン河流域に於ける南北交通路は極力之を確保すると共に河内、
西貢は極力之を保持するに努む
ハタケク附近に軍司令部位置を設定すると共に複郭陣地を準備す

第三 部 署

九北部防衛隊 (21D 841 基幹) は左の如く準備す

1. ポンピン附近に主抵抗據點を堅固に構成し是を支拂とする韌軟な
る獨力戰闘遂行を準備す
2. 海岸附近には一部を配置し努めて敵を水際にて撃破するに努む
3. 地區内要地に遊撃據點を構成し上陸せる敵に對し活潑なる遊撃戰

0697

を展開す

4 國境より進入する支那軍に對して國境要塞の利用及ソンラ附近に於て極力之を阻止し已むを得ざるも米文地上連絡の妨害遮斷に努む

5 河内は有力なる一部を以て之を確保に努む之が爲河内防衛に關し所在軍直轄部隊を指揮す

6 中部防衛隊(4B)基幹34Bは右の如く準備す

1 安南山系を横斷する諸道路を扼守しメコン河々谷南北縦貫路を確保するに努む

2 海岸附近は一部を以て監視せしめ所在に遊撃據點を構成して上陸せる敵の戦力漸耗を策す

3 パチン附近に約一大隊の陣地を構成し同地附近に上陸を企圖する敵の破挫に努むると共に北部防衛隊に連繫し敵の北部佛印への突進を妨害す

0698

4 順化は有力なる一部を以て確保するに努む

5 状況已むを得ざれば安南山系を扼しつつ後退タケツク附近に複郭を準備す

十二、南部防衛隊（2D 基幹）は左の如く準備す

1 西貢北方ロクニン、クラチエ附近に堅固なる主抵抗據點を構成之を支撐とする鞏軟なる獨力戦闘遂行を準備す

2 海岸附近は之を監視するに止め上陸する敵に對しては所在の遊撃據點に依り活潑なる遊撃戰を展開其の戦力漸耗に努む

3 西貢は有力なる一部を以て之を保持するに努む

又金邊は成るべく永く之を保持するに努む

4 泰國方面よりする敵の突進を警戒す

十三、第十一根據地隊は左の如く準備す

1 第二師團と密に連繫しつつドモ附近に堅固なる陣地を構成して敵の攻撃破挫に努む

2 聖碑カムランは之を確保す之が爲同地區に於て各一中隊を同地海軍指揮官の指揮下に入らしむ

3 西貢所在陸戰隊は同地陸軍防衛隊長の指揮に入らしむ

4 地區内所在及地區内通過の陸軍部隊を防衛に關し指揮す

5 軍直轄各部隊は防衛に關し各所在地防衛司令官の指揮を承く

6 軍司令官はタケツク附近に位置す

第四 通信、補給其他

15 南方軍第五通信隊はタケツクを中樞とし各兵團司令部及南方軍總司

令部ハクセ間の通信網を準備す其の細部は別に定む

夫北、南部兩防衛隊は各々其の據點内に少くも六ハケ月分の糧秣及彈藥

半會戰分を準備す

中部防衛隊の補給は軍に於て擔任す

17 サムメア、パウサン道は九月末迄に概成す之が實施は軍の擔任とす

十八築城は所在物料を利用するを本則とし所要に應じ軍に於て之を交付

す

十九工事概成の時期は九月末を目途とし爾后之が強化に努む

七〇

0701

附 錄

終戰時第三十八軍隸指部下部隊一覽表

軍司令官 中將 土 橋 勇 逸

第三十八軍司令部 約 一、〇〇〇名

(北部防衛隊)

第二十一師團 長 中將 三 國 直 福

步兵第八十四聯隊 約 一五、〇〇〇名

第十九臨時自動車隊 約 四、〇〇〇名

第二十臨時自動車隊 約 七〇〇名

獨立野戰高射砲第六十二中隊 約 一五〇名

第二十二師團野戰病院 約 五二〇名

第二十二師團兵器勤務隊 約 九〇名

(中部防衛隊)

獨立混成第三十四旅團 長

少將 服部 尙志

約 五、〇〇〇名

○ 山砲兵第五十二聯隊

九〇〇名

○ 第二十二師團通信隊

一四〇名

○ 第二十二師團病馬廠

六〇名

第二師團(南部防衛隊)

長

中將 馬奈木 敬信

約 一、〇〇〇名

特設自動車第一中隊

約 一〇〇名

特設自動車第十五中隊

約 八〇名

患者輸送第九十六小隊

約 四〇名

第四百四十九兵站病院

約 二〇〇名

○ 高射砲第一聯隊

約 六〇〇名

○ 船砲高射砲聯隊の一部

約 五〇名

0703

(軍直轄部隊)

○第五十五師團

約一〇、〇〇〇名

○第六十六碇泊場司令部

約二〇〇名

○第二野戰船舶廠

約五〇〇名

第三十八軍野戰兵器廠

約三〇〇名

第三十八軍野戰自動車廠

約一〇〇名

第三十八軍野戰貨物廠

約二〇〇名

第三十八軍兵站病馬廠

約五〇名

第三十八軍馬防疫廠

約五〇名

南方軍第一憲兵隊

約六〇〇名

○鐵道第十聯隊

約二、五〇〇名

南方軍第五通信隊

約五〇〇名

獨立自動車第三十四中隊

約一四〇名

獨立自動車第二百八十一中隊

約一六〇名

兵站自動車第百八十六中隊

約 一八〇名

特設自動車第三十六乃至第三十八中隊同第四十中隊

約 六〇〇名

第三十三野戰防疫給水部

五〇名

南方第二陸軍病院

三〇〇名

南方第四陸軍病院

二四〇名

○第五飛行師團（佛印に在るもののみ）

約二〇、〇〇〇名

○第七航空地區司令部同指揮下部隊

二、〇〇〇名

○第五十九航空地區司令部同指揮下部隊

一、五〇〇名

○第十一根據地隊

三、〇〇〇名

合計

八二、一三〇名

註 ○印は指揮下部隊とす

0705